「開発論」の再編成にむけて

――日本における視野、死角、展望

本セミナーでは、これまでの国際開発論の視野を整理する。そして、国際開発学会「開発論の系譜」研究部会とEAAの「開発と文学」研究会で気付かせた死角に光を当て、「開発論」の再編成を試み、特定の分野別・セクター別に分断されがちであった開発論を再構築する方法を探る。具体的には、日本内外の視点を踏まえ、世代、学説、ポジションを束ねる感性・知識・経験を手がかりに、「開発」をめぐる言説と実践の関係性を明らかにし、今日的な課題への展望を開くことを目指す。

日時：2025年1月16日（木）19:00-22:00

場所：東京大学駒場キャンパス101号館・セミナー室（参加登録者に送付。登録はこちらまたはQRコード）

プログラム（仮）

座長・コメンテーター・・・・松本悟（法政大学）

・趣旨説明・・・・大山貴稔（九州工業大学）・汪牧耘（東京大学）

・発表　日本における開発(援助)論の編成力学・・・・大山貴稔（九州工業大学）

学知としての開発論と日本という場の特徴・・・・汪牧耘（東京大学）

開発論の波紋：地政学的変貌とメコンの眼差し・・・・キムソヤン（韓国ソガン大学）

開発論の内外：青年海外協力隊を操る中央地方関係・・・・松原直輝（東京大学）

・質疑・コメント

・ディスカッション・ワークショップ

EAA
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS
東アジア藝文書院

参加登録

※本セミナーは、以下の研究助成によって開催：
・国際開発学会「開発論の系譜」研究部会・活動費（2023年11月-2026年10月、代表者：大山貴稔）
・「中国における「国際開発研究ブーム」：非欧米社会の開発知識の可能性」（日本学術振興会・科学研究費助成事業・若手研究、2023年4月-2025年3月、代表者：汪牧耘）
・「グローバル・サウスから見た「平和国家」の変質：メコン地域の開発援助関係者への聞き取りを通して」（稲盛財団・稲盛研究助成（人文・社会科学系）、2024年4月-2026年3月、代表者：大山貴稔）